

# 国語科パート(3年ブロック)

単元名 民話びょう風で伝えよう ～斎藤隆介さんの作品の一番好きな主人公～

学習材名 「モチモチの木」 「おすすめ図書カード」を活用しよう

(目指す児童像) 人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み取り、主体的に読書を楽しむ子

## つきたい力

(領域)「C 読むこと」目標

目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

- ① 叙述を基に想像して読む力  
場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて読むことができるようになる。
- ② 人により感じ方の違いに気付く力。

<学習内容の確実な定着を図る指導の工夫・改善>

- ① 確実な定着を図るための展開の工夫  
① ワークシートの工夫  
自分のおすすめする本を紹介するために必要な登場人物の性格や物語のあらすじを1枚にまとめられるようにする。  
② 豊かな読書活動  
目的意識をもって物語を何度も読めるようにする。  
③ 学び合いの場  
個→ペア・グループ→つ全体
- ② 自己・相互評価の工夫  
毎時間の自己の振り返りをする。

<学習意欲を高める指導の工夫・改善>

- ③ 意欲をもたせる工夫  
① 教師が作成した民話びょう風を紹介する。  
② 友達に紹介するというゴールを明確にする。
- ④ 意欲を持続させる工夫  
① 学校図書館司書との連携を図る。  
② これまでの学習で身に着けたことを教室に掲示し、それを生かして学習できるようにする。

## 単元の目標

- 斎藤隆介の作品に興味を持ち、一番好きな主人公の作品を民話びょう風で友達に紹介し斎藤隆介の作品のよさを知ろうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むことができる。(読むこと)
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気付くことができる。(読むこと)
- 表現したり、理解したりするために必要な語句を増やし、使うことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 【本時の授業の実践と考察】

本時(11/11時)

(※ 考察)

- 1 前時の学習内容をふり返る。 手だて4-② 手だて3-①

T: みんなみごとなびょう風を作ることが出来ましたね。

- 2 本時の課題を知る。

**課題 民話びょう風を使って、自分が一番好きな主人公を紹介し合おう。**

- 3 同じ主人公のグループで話し合う。(グループ学習) 手だて1-③

T: 主人公の好きなわけを紹介してください。

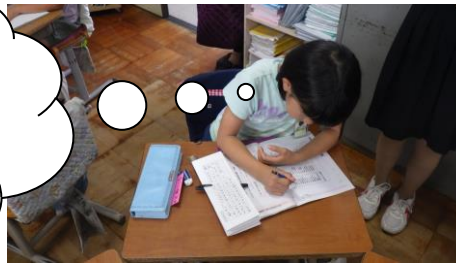
C: 本当はソメコがオニを怖がるのに、オニがソメコを怖がっていて、オニを困らせるところが面白いなって思ったよ。



C: ぼくはお母さんたちが遊んでくれなくて、オニは遊んでくれるからだと思うよ。

- 4 自分が好きな理由をふき出しに書く。(一人学び) 手だて1-③

C: 火の鳥をたった一人で退治しに行くんだから、やっぱり「勇気がある」にしよう。



※話し合いの手順を示すことにより一人ひとりが考えた好きな理由を発表し、同じ主人公でも違いがあることに気づくことができた。

- 5 全体で交流をする。 手だて1-③

C: どの話も主人公が勇気があるな。



C: 僕たちのグループでは村の人たちに笑われながらも、一人であきらめなかったのだから「あきらめない」としました。

※全体で交流することにより、主人公の良さに気付くことができた。

- 6 学習の振り返りをする。 手だて2-①

【指導講評】さいたま市教育委員会学校教育部指導1課指導主事

倉橋 りえ子先生

- 課題設定は子どもたちに「魅力的か」「できるかな」「やってみたい」というバランスが重要。この授業の民話びょう風はとても良かった。
- 子どもたちに読みやすい資料を6冊にしぼることが良かった。
- 学びの場として、個→グループ→個→グループと交流し、全体に広められ良かった。
- モチモチの木での学習が活かされていた。
- 同じ主人公、異なった主人公を全体の場で並べるとこれまでの学習で視点を変えられるのではないか。
- 上の学年で、作者についてというステップにつながるので高度な学習にはならないようにする。